

# FIETSVAK2012 及びアムステルダム市内自転車店調査報告

平成 24 年 2 月 27 日

## 1. FIETSVAK2012(オランダ自転車商談会)

国内販売業者向け自転車商談会である同展は、6 年ぶりに会場をアムステルダムに戻し、2012 年 1 月 29 日(日)～31 日(火)の 3 日間にわたり開催された。

### 【FIETSVAK2012】

主催： rai vereniging, AMSTERDAM RAI

会場： Amsterdam RAI (昨年 AUTRON ROSMALEN)

会期： 2012 年 1 月 29 日(日)～31 日(火) 10:00～18:00

使用ホール： ホール 8、12,000 m<sup>2</sup>

入場者数： 7,439 人(昨年 6,594 人※)

出展社数： 135 社(昨年 134 社※) ※昨年は AUTRON ROSMALEN 開催



アムステルダム・ライ



ホール 8 の様子

従来から同展はシティ車、トレッキング車及び電動アシスト自転車(EPAC)が出展の中心であったが、今回は EPAC の出展が更に増えた印象であった。出展者は 135 社と前年よりわずか 1 社であるが増加し、来場者は前年比 12.8%増の 7,439 人となった。オランダの自転車市場では、一般の自転車販売が低迷する中でも EPAC の販売台数は増加を続けており、EPAC が主役の同展もそれに準じて堅調な結果を収めた。

主な出展ブランドは、アクセルグループではバタバスとスパルタの 2 大ブースを筆頭に、コガ、ビィノーラ及びハイバイクの各ブースで多くの EPAC が出展された。他には BMX 中心のレッドライン、更に中・高価格帯中心のスポーツ車を得意とするゴースト等、同グループは多くのブランドを揃えていた。更に国内有力メーカーのガゼレ、ユニオン及び MONTEGO 等が昨年同様に大きなブースを構えた一方、去年までは EPAC を中心にトレッキング車等を出展していたジャイアントは今回見られなかった。

また、今年も米国ブランドのトレックとキャノンデールが出展したが、両社が本来得意とする高級スポーツ車は全く見られず、トレックはオランダ市場向けのデザインやフレームカラーの EPAC やトレッキング車に絞った出展を行った。また、キャノンデールは EPAC に専念し、同社の EPAC は今回の展示会での表彰車となっていた。同じく表彰されたバタバスの EPAC は、バッテリーをチェーンケース部分に収納する新商品であり、来場者の注目を大いに集めていた。

部品や付属品関係では、シマノをはじめ、タイヤではシュワルベ、コンチネンタル及び CST、サドルのセラ・ロイヤル、鍵の AXA、ABUS 等、例年同様の顔ぶれであった。品目では同国市場で需要の高いカゴ類やバッグ類や、盗難に備える頑丈な鍵、照明及びヘルメット等の充実が目立った。



コガ



スパルタ



電動アシスト自転車（左：キャノンデール、右：トレック）

昨年に続き、婦人車や子供車を中心に、白やパステルカラー等の軽快なフレームカラーの自転車が多くみられた。極太パイプのU形フレーム、多彩な色やデザインのバッグ類が付属した自転車も多く展示され、華やかな印象のものも増えた。従来のダッチバイクに代表されるような実用的なイメージの強いものから、消費者の好みの多様化に合わせ、各メーカーは独自の個性を出そうとしている様子も伺える。特に比較的構造がシンプルで廉価なシティ車

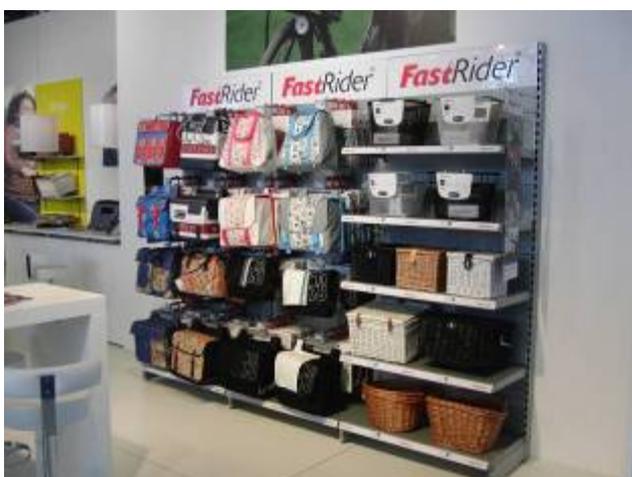
では、デザイン重視により差別化を図り付加価値を高める傾向は、同国だけでなく他の欧州市場でも増えつつある。

去年までの開催地ロスマレンが必ずしも利便性が良いとはいえなかったため、今回のアムステルダムへの回帰は出展者、来場者の双方に歓迎され、同展は一定の成功を収めたとも言えるが、今後の欧州危機の動向は不透明さを増しており、今後も引き続き同展が成功を続け成長できるかどうかともまた不透明である。

来年は同地にて 2013 年 1 月 20 日～22 日まで開催予定である。



付属品が充実した婦人車



カラフルなバッグ等

## 2. アムステルダム市内自転車小売店調査 【実施日：平成 24 年 2 月 1 日(水)】

### 調査店舗①

最初にアムステルダム中央駅から地下鉄で一駅目の小型店舗を訪問した。店内にはダッチバイク等のシティ車が 25 台程あった。取扱ブランドはカゼレを中心に価格帯は 500～900 ユーロ (51,000～91,800 円) である。他にダホン等の折り畳み車も 5 台あり、更に幼児用座席、バッグなどの付属品類も充実していた。

### 調査店舗②

次に店舗①より一駅先の店舗を訪問した。同社はアムステルダム中心部にて合計 4 店舗の

レンタサイクル店を展開している。今回、訪問した支店は自転車整備と一部販売も併せて行なっていた。屋外には新車ではガゼレのシティ車が 7 台あり、価格帯は 500~700 ユーロ (51,000~71,400 円) であり、傍らの中古車 3 台は 200 ユーロ前後 (20,400 円) であった。



調査店舗①



調査店舗②

### 調査店舗③

地下鉄に再度乗車してアムステルダム・ライ駅で下車し、徒歩でスポーツ車中心の中規模店に向かう。店頭には廉価車や中古車を並べる店舗が多い中、同店は高額な電動アシスト自転車 (EPAC) を屋外に 7 台程展示し、それらの価格帯は 1,500~2,000 ユーロ (153,000~204,000 円) にも及ぶ。EPAC の取扱ブランドはバタバス、フライヤーやトレックが中心である。地階の売り場にはロードバイクや MTB 等のスポーツ車が充実し、主要ブランドはトレック、スペシャライズド、キューブ及びベルガモント等の中・高価格のスポーツ車ブランドが多い。

### 調査店舗④

更に店舗③より路面電車で数駅離れた中規模店を訪問した。取扱ブランドはバタバスやスパルタのシティ車、トレッキング車を主体に 80 台程あり、EPAC はスパルタが 5 台。他には MONTEGO のダッチバイクや運搬車、ジャイアントのクロスバイク等のスポーツ車もある。中心価格帯は 700 ユーロ前後 (71,400 円) であるが、300 ユーロ (30,600 円) 前後の求めやすいものも多くあるためか、訪問時は数人の客で店内はにぎわいを見せていた。



調査店舗③



調査店舗④

### 調査店舗⑤

続いて店舗④より路面電車で 10 分ほど離れた住宅街にある小型店舗を訪問した。シティ車、トレッキング車はバタバタとスバルタを中心に 40 台程あった。更に子乗せ自転車や運搬自転車も目立つが、一方でスポーツ車はほとんど見られない。また、木製の幼児歩行車や幼児用座席などの付属品類も多く、親子で日常利用する人々を対象とした自転車と関連商品を中心に据えた店舗であった。

### 調査店舗⑥

一旦、中央駅に戻りバスで数分に位置するスポーツ車中心の中型店を訪問した。取扱ブランドはスティーブンスが中心であった。1 階には 700 ユーロ (71,400 円) 前後のスティーブンスのクロスバイク等が 20 台程と高額なカーボンフレーム等もあった。別の売り場にスポーツ車が 70 台ほど展示され、価格帯は 1,000~2,000 ユーロ (102,000~204,000 円) が中心の高額商品を多く扱う専門性の高い店舗であった。また、店舗のオリジナルブランドのスポーツ車もあり、そのロードバイクには 1,800 ユーロ (183,600 円) の値が付いていた。



調査店舗⑤



調査店舗⑥

### 調査店舗⑦

更に店舗⑥より路面電車を乗り継いで、シティ車、トレッキング車を中心に店内に 50 台ほどの小型店舗を訪問した。店頭には中古車が 5 台あり、その販売価格帯は 90~200 ユーロ (9,180~20,400 円) であった。

### 調査店舗⑧

最後に店舗⑦の近くに位置するシングルスピード車とその関連商品を中心に扱う店舗を訪ねた。同店スタッフは昨年の EUROBIKE の当方ブースに来訪し、各共同出展者の製品を熱心に見入るなど、日本製部品にも強い関心示していた。



調査店舗⑦



調査店舗⑧

今回調査の途中で、当初の予定にない店舗も2店訪ねた。両店ともガゼレの看板を掲げた小型店舗であった。ダッチバイク等のシティ車が中心であり、店内には50台前後、価格帯は600～900ユーロ(61,200～91,800円)であった。

今回訪問調査した店舗は市内の一部店舗に限られるが、自転車の日常利用が大変に盛んな当地では小規模店が各地に点在し、自転車小売専門店の販売比率が7割近くを占めるオランダ自転車市場において、人々の自転車店への需要は依然として高いとみられる。



調査途中で見かけた店舗

以上

(国際業務部)